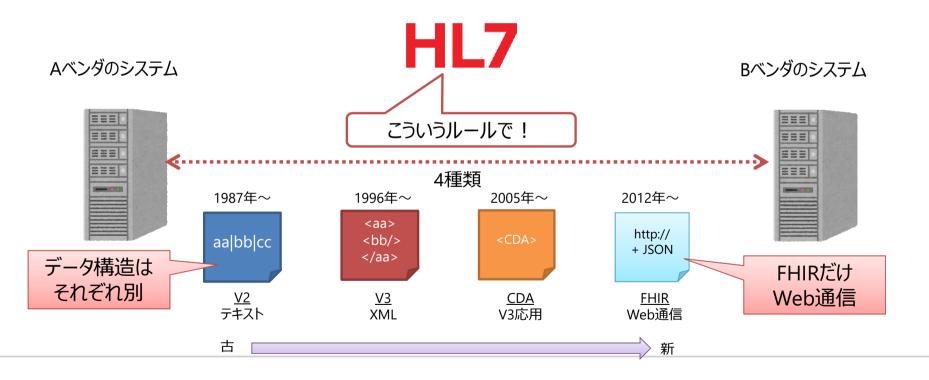
# 第39回医療情報学連合大会 FHIRシンポジウム HL7<sup>®</sup> FHIR<sup>®</sup> とは何か?

キヤノンメディカルシステムズ株式会社 ヘルスケアIT第二事業部 エンタープライズITマーケティング担当 塩川 康成

日本HL7協会 適合性認定委員長 一般社団法人日本IHE協会 理事、放射線技術委員長 上級医療情報技師S2007007 上級医療情報技師育成指導者

#### HL7 とは何か?

HL7はコンピュータ間での医療文書情報のデータ連携を標準化するための国際規格で、 V2(テキスト)、V3(XML)、CDA(V3の進化版)、FHIR(Web通信)の4種類がある。 それぞれ、データ構造(フォーマット)のルールを定めている。 FHIRのみ、Web通信での連携を前提としている。



Canon

### FHIR が登場した背景

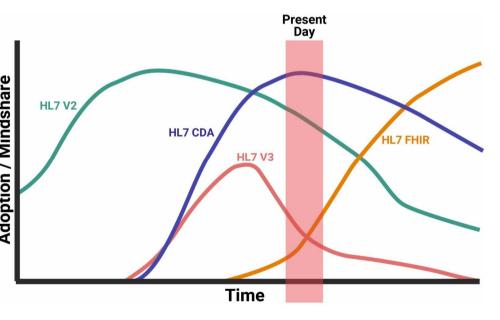
- ➤ HL7 は誕生から30年が経過した。
- ▶この間に環境は大きく変わった。
  - ●団体、専門領域の垣根を越えたニーズ。

●利用形態の変化(施設PCからモバ

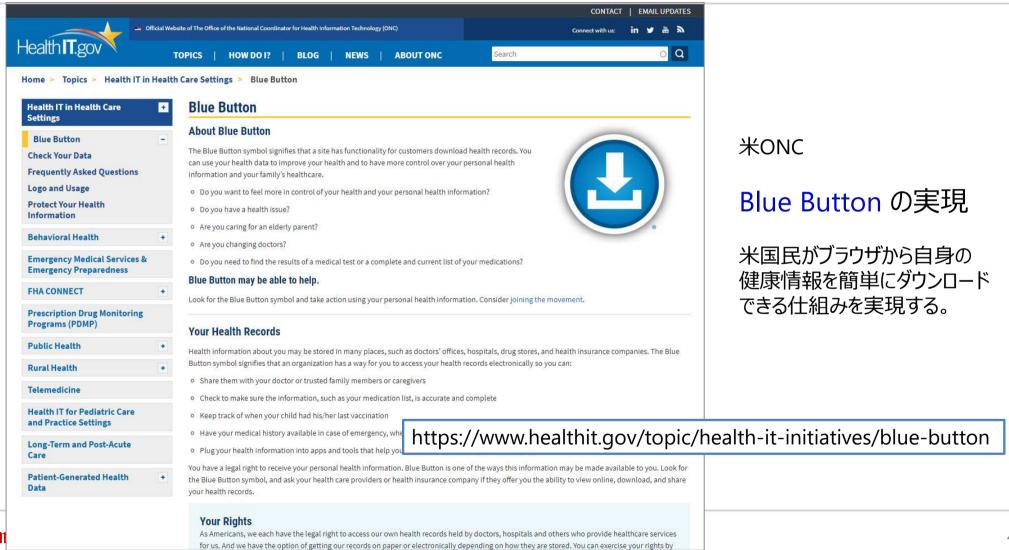
●IT技術の変化(Web、クラウド&サピ

●要求サイクルの短期化(年→月→違

➤ CDA は成功し(よく使われ)、使いなったが、それでもまだ労力が必要



## FHIR が登場した背景



## FHIR が登場した背景



#### FHIR とは

# Fast (to design and implement)

**H**ealthcare

Interoperability

Resources



## 手早く設計し導入できる、

保健医療分野の相互運用性リソース

## FHIR のコンセプト

- ▶簡単、開発コスト/期間を短く
  - ●実装主義
  - ●汎用技術の採用(HTTP、XML、JSON)
- ▶データを"リソース"で表現 REST = Web通信技術
- ➤実装本位でHL7内/外の成果を活かす
  - ●V2, V3, CDA + openEHR, CIMI, ISO13606, IHE, DICOM
- ▶80%ルール
  - ●標準としては80%を決め、現場の多様性を、20%の拡張で表現する。
- ▶ドキュメント、メッセージ、サービス統合

#### FHIR が Web通信を採用した理由

▶世界中の情報共有はブラウザ経由で簡単に! → RESTという世界共通の一般的な通信手順 = 誰でも簡単に情報を取得共有できる。 Webブラウザ **REST REST** データサーバー **REST** モバイル 世界中の開発者がREST用の通信プログラ ムや開発ツールをオープンで提供している。 プログラムやツール → 生産性高く開発できる



## 後方互換を意識した FHIR の Paradigm 概念

## ➤ 通信上の4つの Paradigms

**REST** (REpresentational State Transfer)

HTTPの活用、操作は事前定義

 Mobile, PHS, Registries などの シンプルな連携に適する

REST Documents **FHIR** http:// CDA + JSON <aa> aa|bb|cc <bb/> Messages Services V2, V3 </aa> その他 Messages Services

- V2, V3 と同様でバンドルリソース集合
- 要求+応答のバンドル
- イベント駆動型で非同期も可

#### **Documents**

- 独立型文書(CDA) または集約された Resource のタイプ
  - 1 つのコンテンツで、署名認証などが可

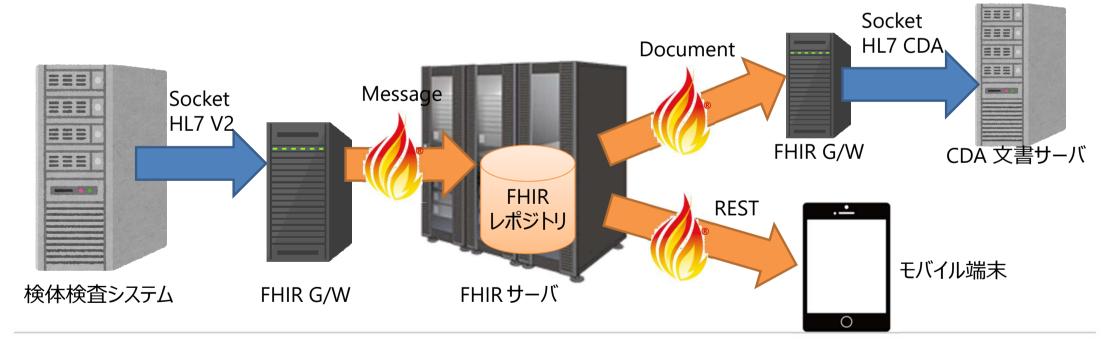
<CDA>

Other

- SOA原則に基づき、自由にワークフローを実現
- 制約:FHIRリソースに適すること。

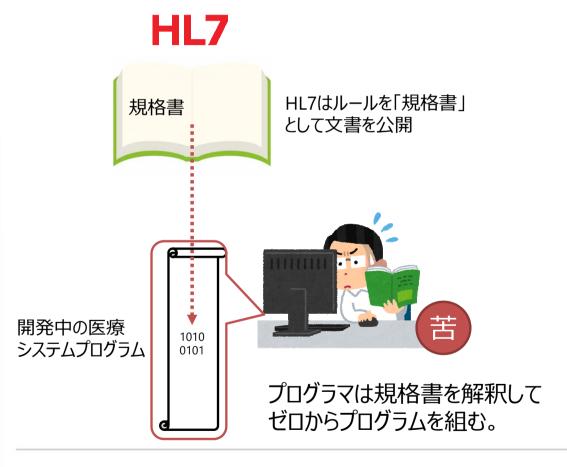
## 後方互換を意識した FHIR の Paradigm 概念

- ➤ 通信上の4つの Paradigms
  - ●検体検査システムから検査結果メッセージ HL7 V2 を FHIR G/W経由で FHIR サーバに送付。FHIR レポジトリに情報を JSON、XML等で蓄積。
  - ●さらに別のParadigmでそれを共有し、参照することができる。

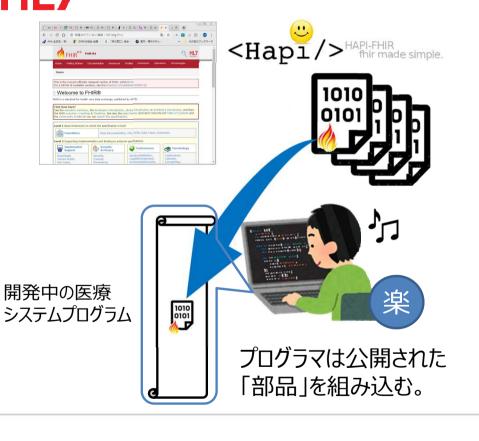


## 実装面での HL7 V2, V3, CDA vs FHIR

● HL7 V2, V3, CDA の場合(これまで) ● HL7 FHIR の場合(新登場)



HL7と協力団体が連携プログラムを「部品」として公開



#### FHIR の詳細情報 ⇒ http://hl7 ora/fhir/



#### Welcome to FHIR®

レベル 1: Foundation(基礎)

什様作成時の基本フレームワーク

レベル 2: Implementer support(実装者支援) 実装者が利用できるための支援

レベル 3: Administration(管理)

患者、医療従事者、組織、機器、物質などを管理、 トレースするための基本規定

レベル 4: Clinical(臨床情報)

プロブレム、アレルギー、治療過程(治療計画、紹 介) 等の主な臨床情報

レベル 5: Clinical Reasoning(臨床支援) 意思決定支援、品質管理支援

Level 1 Basic framework on which the specification is built



Foundation

Base Documentation, XML, JSON, Data Types, Extensions

Level 2 Supporting implementation and binding to external specifications



•• Implementer Support

Downloads, Version Mamt. Use Cases, Testing



Security & Privacy

Security, Consent. Provenance, AuditEvent



Conformance

StructureDefinition, CapabilityStatement, ImplementationGuide, Profilina



CodeSystem, ValueSet. ConceptMap, Terminology Svc



Exchange

REST API + Search Documents Messaging Services Databases

Level 3 Linking to real world concepts in the healthcare system



Administration

Patient, Practitioner, CareTeam, Device, Organization, Location, Healthcare Service

Level 4 Record-keeping and Data Exchange for the healthcare process



Clinical

Allergy, Problem, Procedure. CarePlan/Goal, ServiceRequest, Family History, RiskAssessment, etc.



Diagnostics

Observation. Report, Specimen, ImagingStudy, Genomics, Specimen, ImagingStudy, etc.



Medications

Medication. Request, Dispense, Administration, Statement, Immunization, etc.



**Morkflow** 

Introduction + Task, Appointment, Schedule, Referral, PlanDefinition, etc



Financial

Claim, Account, Invoice, ChargeItem, Coverage + Eligibility Request & Response, ExplanationOfBenefit. etc.

Level 5 Providing the ability to reason about the healthcare process

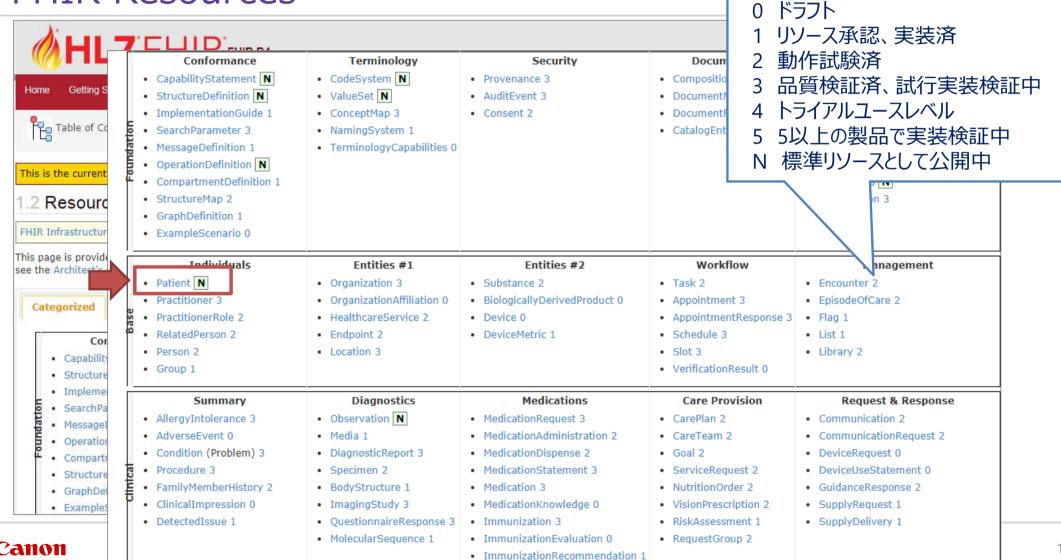


Clinical Reasoning

Library, PlanDefinition & GuidanceResponse, Measure/MeasureReport, etc.

Call Level 3 Linking to real world concepts in the healthcare system

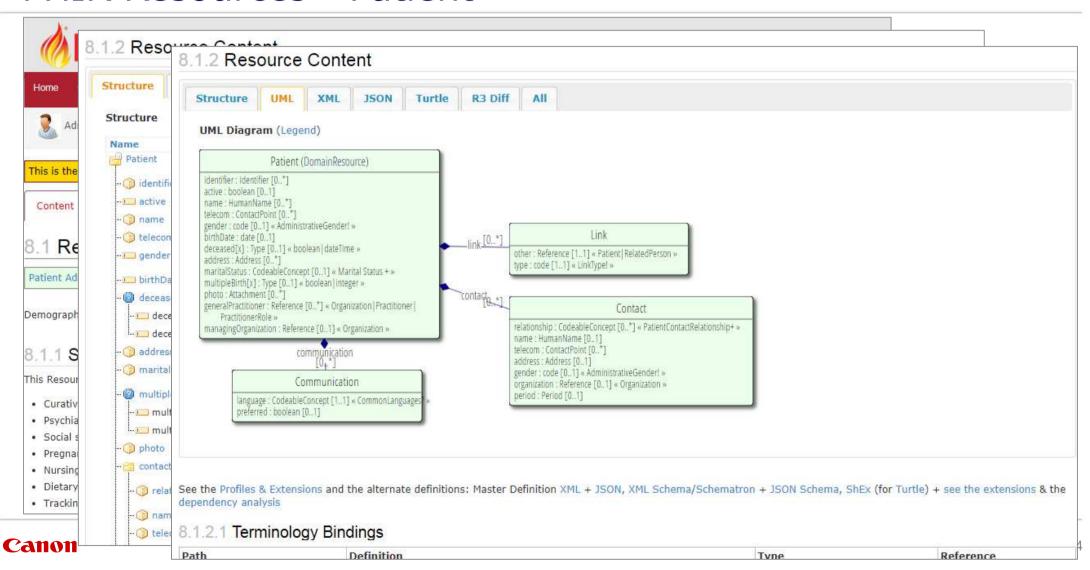
#### FHIR Resources



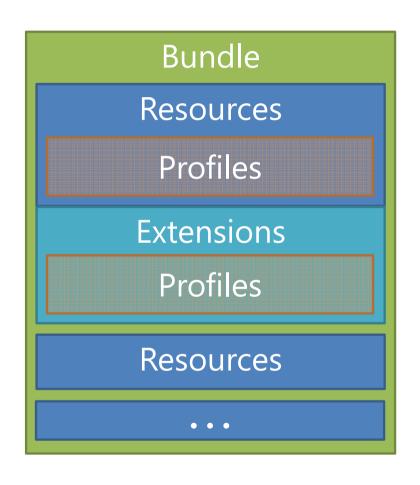


成熟度(Maturity Levels)

#### FHIR Resources - Patient



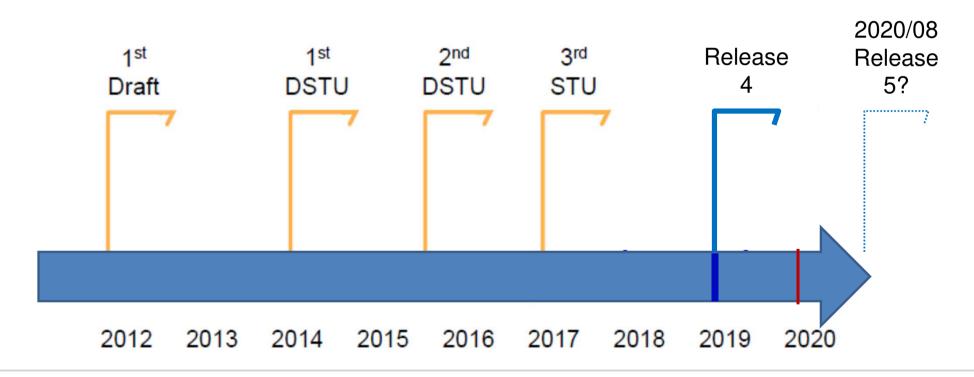
## FHIR のデータ構造定義



- ➤ 基本 Resource だけでは不十分である
  - ⇒ 医療には多様な背景、状況がある
- ▶ 特定の実装・ユースケースには次のような要求がある
  - Resource の制約 ⇒ Profiles
  - Resource の拡張 ⇒ Extensions
  - 特殊なコードセット、用語
  - 特化したリソースの活用
- ➤ FHIR はプラットフォームの仕様である
  - Profile は特定の要件(目的)に適合するものである
  - 基本通信フォーマットは変更しない
- ➤ 実運用では Resource の組み合わせが使われる
  - Bundle は 複数の(拡張、制約を定義された) Resource をまとめて定義できる

## FHIR の 開発ロードマップ

2019/06 現在で、TUが取れた正式バージョン Release 4 が公開中 ⇒ 2020/8月に Release 5 が 公開される予定。



## USにおけるFHIR実装状況(ONC集計)

ベンダ(シェア大)	FHIR API Version	病院での採用率	医療者の利用率
Allscripts	FHIR R2	5%	9%
athemahealth	FHIR R2	<1%	5%
Cerner	FHIR R2	21%	5%
CPSI	FHIR R2	10%	-
eClinicalWorks	FHIR R2	-	7%
Epic	FHIR R2	21%	27%
GE	FHIR R2	<1%	5%
MEDHOST	FHIR R2	5%	-
MEDTECH	FHIR R2	20%	<1%
NextGen	FHIR R2	<1%	6%
Total		82%	64%

## ちょっと待て!FHIRは「魔法の杖」ではない!

- R4が登場するも、データ構造仕様は実はほとんど固まっていない(規格化が不十分)。またデータ構造も拡張が自由にできてしまう。
- 実装しやすいが、データ構造の扱いルールが弱いので、開発者による自由な実装による FHIR APIが次々誕生し、結果的に相互運用性を確保できなくなる可能性も。
- Web通信がベースになるため、インターネット通信が前提となるが、セキュリティの担保が必須。 FHIR自体はセキュリティ機能は提供せず。
- HL7と協力団体がモジュールやツールを開発しているが、今後永久に開発、保守する体力があるかは未知数。
- 提供されているモジュールはオープンであるため、それを利用したアプリの品質は開発者が担保する必要。(プログラムを覗くと、リファクタリングが必須との指摘も)





## 相互運用性確保に向けた FHIRと IHE によるコラボ



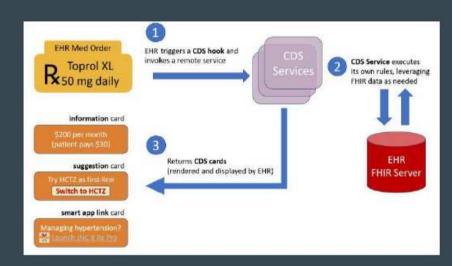
HL7 International Official Blog http://blog.hl7.org/another\_type\_of\_moonshotproject\_gemini

## Project Gemini: 画像分野における FHIR の応用技術

https://cds-hooks.org/

## **CDS Hooks**

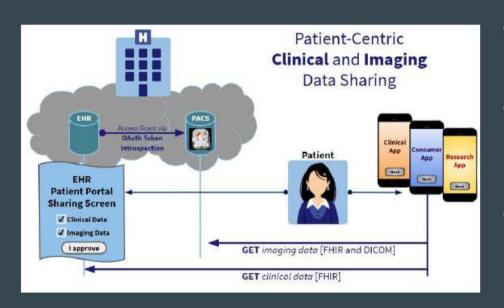
- Lets a system or user invoke a decision support service as part of the workflow, based on patient and encounter context.
- The service executes logic and returns "cards" that contain information or links to approved apps.
- Radiology-relevant tools include ordering appropriateness and diagnostic decision support.



## Project Gemini: 画像分野における FHIR の応用技術

https://docs.smarthealthit.org/

## SMART on FHIR/S4S for Imaging Access



- Links EHR and radiology systems in shared security infrastructure (OAuth2).
- API based on HL7 FHIR and DICOMweb standards lets authorized applications find and access imaging studies and reports.
- Supports patient-facing applications, research applications and clinical applications.

#### FHIR とは

# Fast (to design and implement)

**H**ealthcare

Interoperability

Resources



## 手早く設計し導入できる、

保健医療分野の相互運用性リソース

## ご清聴ありがとうございました。

# Made For life

患者さんのために、あなたのために、そして、ともに歩むために。

人々の健やかな生活の実現のために、「いのち」と向き合う。

「Made for Life」はキヤノンメディカルシステムズの経営理念を象徴するスローガンです。



キヤノンメディカルシステムズ株式会社